

ワークシートを利用した新聞記事の切り抜き

長野県立長野工業高等学校 柳澤 秀樹

1. 本校の様子

私が勤務する長野工業高校は、全日制1学年7科7クラスと定時制1学年2科2クラスの工業高校である。「至誠努力」を校訓として、“ものづくり”のエキスパートを養成する工業の専門教育とクラブ活動に熱心に取り組んでいるのが特徴である。

設置されている科は、全日制は機械科・電気科・情報技術科・工業化学科・土木科・建築科・環境システム科の7科、定時制は基礎工学科・建築科の2科である。クラブ活動は陸上班、柔道班等が北信越大会まで出場し、環境システム班のソーラーカーが全国規模のレースで優秀な成績を上げている。

2. 実践の概要

対象生徒 1学年（1クラス）…建築科1年生・男子37名女子3名
（実践者が担任しているクラス）

科目 SHR及びLHR内活動

講読時期 10・11月

購読紙 信濃毎日（朝夕刊）・朝日・読売・毎日・産経・中日・日本経済・長野日報

設置場所 建築科1年HR…教室内の一角にカラーボックスを用意し、ボックス内には前日までのものを新聞社毎に1週間分を目安に入れておいた。ボックスの横に当日の新聞を設置した。

私の担当教科は国語である。本校の1年次・国語の授業“国語総合”は週4単位あるが、3名で担当しており、考査毎の範囲を揃えているため、授業内実践は難しいと考えた。本年度より私が担任を持ったので、担任クラスのHR活動を利用して実践することとした。

3. ねらい

実践前アンケートによると、新聞を“ほとんど読まない”と答えた生徒が12名（30%）おり、1日に新聞を読む時間は“5分以上15分未満”が23名（57.5%）が実態である。日頃の生徒達の様子を見ると、学校の休み時間も携帯電話、DSやPSP等のゲーム、マンガに支配され、帰宅時間もクラブ活動に所属する者は8時以降が実態であり、新聞とは縁のない日常にいる者が多い。

しかし、高校卒業後の進路は35%の生徒が就職して、すぐに社会の中に入っていくこと。65%いる進学者の約半数が専門学校への進学であり、1年後には就職活動を通して社会の現実に向き合わなければならない。このことから新聞記事を通じて社会に触れ、ものの見方・考え方を養うきっかけになれば良いと願い、次のようなことを考えた。

- ①新聞を開き、記事を読む習慣をつける。
- ②自分の興味・関心に沿った情報を探す力をつける。
- ③獲得した情報に対して、自分の考えを構築する。
- ④自分の考えを他者に発信する力をつける。
- ⑤他者のものの見方や考え方を理解する。

4. 活動内容

9月の文化祭を終え、落ち着き出した頃から学級通信（週1～2回不定期発行）で啓発しながら、10月から教室内に新聞を閲覧できるような環境にした。そして、LHRで以下のように提案し、具体例も示して、新聞記事の切り抜きを基にしたワークシート（資料1）の作成を指示した。

（作成マニュアル）

- 1 新聞記事を読み、自分の気に入った記事・気になる記事を探す。
 - ・選ぶ記事は、マンガ・広告・テレビ欄以外であれば、何面のどんな記事でも構わない。
 - ・何の記事を選ぶかによって、自分のコメントも決まる。ここをきちんとやれば大丈夫。
- 2 気になった記事を熟読し、要約する。必要に応じて記事内に傍線を施すと良い。
- 3 「NIEワークシート」の記入方法
 - ①記事を選んだ「**新聞名**」に○をする。（届けられる8紙が対象）
 - ②記事の掲載された「**月・日・曜日**」及び「**第何面**」掲載かを記入する。
 - ③選んだ記事を切り取り、「**記事貼り付け欄**」に貼り付ける。
 - ・大きすぎて欄内に収まらない場合は、私が適宜縮小コピーをするので、申し出ること。
 - ④記事の大見出しを「**見出し**」欄に記入する。
 - ⑤「**記事の内容**」欄に、前項2で行った作業に従って、記事の内容を簡単に要約する。
 - ・他の人がこの欄だけを読んでも、どのような記事かわかるように工夫すること。
 - ⑥感想欄に、「**その記事について、あなたが思ったこと、考えたこと、感じたことなどを書いてみよう。**」
 - ・この作業の主目的に当たる部分。丁寧に、自分の思ったことを書くこと。
 - ・「なぜ、その記事を選んだか」も含めて書いてくれると良い。
 - ⑦完成したら、「**番号・氏名**」が書いてあることを確認して期日までに私へ提出。
- 4 それぞれが担当した記事の後日、印刷してクラス全員に配布して読み合わせる。

5週にわたり、1週間に8名をレポーターとして予め指名しておき、翌週の月曜日に提出させるようにした。その中からよく書けているものを2本選び、「今週のよくできたで賞」としてSHRで読み合わせをして紹介した。（資料2）

その間、「今週のよくできたで賞」の読み合わせと並行して、前述の学級通信を用いて、新聞を読む体験から考えたり、身につけて欲しいことをメッセージとして伝えた。（資料3）

全員が提出したところで、私が誤字脱字を含め添削し、コメントをつけて返却した。LHRを使い、その原稿を清書した。そして清書原稿を校内印刷して、生徒達と製本して「新聞を読もう〔ワークシート〕集」という冊子にまとめた。

5. 感想と課題

日頃の生徒達の生活実態や実践前アンケートから、生徒達が日常の中で新聞を読んでいないことはわかってきた。また、実践後アンケートからも、新聞への関心が高まったかと言えば、とてもそうは思えない結果だったことは残念である。しかし、新聞が届けられていた2ヵ月間はワークシート作成課題のためばかりではなく、多くの者が休み時間に新聞を広げている光景を目にして、「やって良かった」と感じている。21名（52.5%）の者が“新聞を使った授業が面白かった”と答え、17名（42.5%）が“文章を読むことが好きになった”と答えたのは何よりだった。

最大のねらいは「新聞に親しむ」「新聞を読む習慣をつける」にあったので、少しでも生活の中の話題になれば良いというのが、今年の段階だったと考える。その中で「ものごとをどのように見、どのように考えるか」が徐々に身につけてくれることを願っている。

生徒達は思い思いに記事を選んだ。不思議なくらい新聞は異なっても同じ記事を選ぶ者はほとんどなかった。建築科らしく建築関係の記事に注目する者もいれば、スポーツへの興味が高いこともうかがえた。予想以上に身近な地元の話題に注目していることも分かり、その興味が外へと広がると良いと考える。実に32名（80%！）の家庭で信濃毎日新聞を購読している。日頃見慣れているためもあるだろうが、28名（70%）が信濃毎日新聞の記事から選んでいることも、地元・地域のニュースを選んだ理由であろうか。（資料4）

S HRにおける「今週のよくできたで賞」の読み合わせ時に、他の生徒達に感想を書かせれば良かったと反省している。しかし、S HRの10分間という時間的な制約から読み合わせが精一杯であった。この辺りがHR活動における展開の不自由さでもある。

私は「まとめ集」の最後に「情報化社会の中で新聞を読むこと」として、次のように生徒にメッセージを送った。

成人の新聞を読む時間は平均27分／1日だそうだ。私は1時間位（朝20分、帰宅後30分位）は読んでいるように思う。もちろん、現在は情報を得る手段としては、インターネットの方がはるかに早い。即時的に広範囲な情報が入ってくる。また、見出しだけをつまみ読みしても、おおよそどのようなことがニュースになっているかはわかる。君達の多くも「テレビ・ラジオ」と同様に、「インターネット」を「出来事を詳しく知る」ために利用していることがわかった。私のインターネット利用も、ほとんどが情報収集だ。

それでも新聞を読む。事件や事故の事柄ばかりではなく、“なぜか・どうしてか・その後どうなったか”を解説してくれるからだ。また、インタビュー記事や書籍の紹介などで新しい“出会い”があるからだ。

インターネットからの情報は泡沫のように次から次へと現れては消え、結局残ることはない。メールのやりとりをしても、同じメールを繰り返し読むことがないように。

しかし、新聞記事は残して、後で読み直し、初見とは別の感想や感慨を抱くことができる。その点が良いなと思っている。今回こうしてまとめたことで、もう一度“自分が選んだ記事・自分が書いたコメント”を読み直すことで、新たな感慨が湧いたら良いなと思う。また、級友が選び、書いたものを読んで、自分になかった“新たな考え”に触れたり、自分とは“別の視点”で記事を選んでいることに気づければ良いとも思う。

そして願わくば、社会人として毎日、新聞に目を通し、学校・会社や家庭で話題豊富な人になってくれるとうれしい。

せっかく与えられたNIE実践の機会を通じて、生徒達の成長を促したいと思っている。

◇新聞を読もう〔N I Eワークシート〕

1年建築科〔 〕番 氏名〔 〕

○自分の気になった記事

記事貼り付け欄

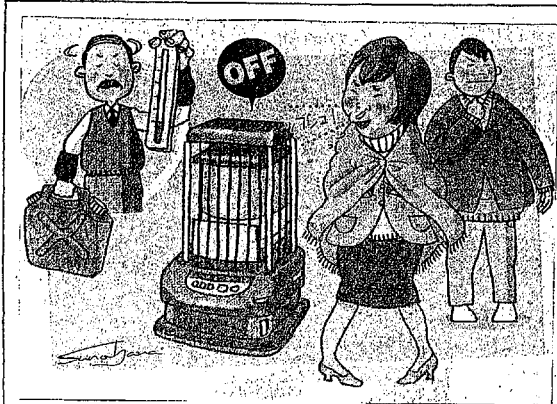
新聞名： 信濃毎日（朝刊・夕刊） ・ 朝日 ・ 読売 ・ 毎日
産経 ・ 中日 ・ 日本経済 ・ 長野日報 新聞〔いずれかに○〕
〔 〕月〔 〕日〔 〕曜日 第〔 〕面

見出し〔 〕

○記事の内容（簡単に要点をまとめる）

○その記事について、あなたが思ったこと、考えたこと、感じたことなどを書いてみよう。

○自分の気になった記事



暖房費ピンチ 学校「厚着を」

生徒・教員に協力求める

原油価格高騰で灯油価格の高止まりが続いている中、県内の学校で、生徒・職員に厚着を指示し、暖房開始時期を遅らせる動きが出ている。この冬は暖冬傾向とも言われているが、予算が足りなくなるとを心配した自治体。県教委も今月、暖房燃料費を追加するなどの対応に乗りだし、厚着を促している。また、寒い思いを我慢してほしいと話し、厚着を促している。また、寒い思いを我慢してほしいと話し、厚着を促している。

松本筑摩高等学校は、ストーブの使用開始を例年より一週間遅らせる。今年も十四日から、各教室の灯油ストーブで対応する方針だ。金館暖房は燃料消費が速い。寒い暖房傾向というので、気温を気にしつつ年末までは教室のストーブで対応したい」と篠塚久義事務長。

小海高校（南佐久郡小海町）のよこ「廊下と屋外を仕切る扉をきちんと閉めるよう徹底し、廊下が特に寒く、ひざ掛けは手放さない。もう暖冬期と同じように過ごしてほしい」と話す。

原油高騰

県内

燃料節約を図る学校も。今月七日現在の灯油の県内店頭価格は十八円当たり千二百五十二円。九百九十九円だった一年前に比べ、25%も割高だ。県教委は本年度当初予算で、県立高校向け暖房燃料費に一億千九百万を盛り、全八十九校に配分した。原油高騰を受け、今月需用費から十万円を充てて、追加配分した。高校教育課は「予算を超えた場合、さらに追加を検討する」としている。

事情は、小中学校も同じだ。七十八の市立中学校在る長野市。市教委は、燃料費として本年度当初予算に約四千六百八十万円を計上。各学校に配分したが、昨年の単価と消費実績で計算したため足りなくなると学校教育課。不足額はまた計算していないが、物価や光熱費を含む需用費全体で補う予定で、各学校に節約を指示している。

新聞名： 信濃毎日（朝刊・夕刊） ・ 朝日 ・ 読売 ・ 毎日
産経 ・ 中日 ・ 日本経済 ・ 長野日報 新聞〔いずれかに○〕
〔 11 〕月〔 10 〕日〔 木 〕曜日 第〔 39 〕面
見出し〔暖房費ピンチ 学校「厚着を」〕

○記事の内容（簡単に要点をまとめる）
原油価格高騰で、灯油価格の高止まりが続いている。そのため、県内の学校で、生徒・職員に対し厚着を指示する動きが出ている。また、暖房開始時期を遅らせるなどという学校もある。今月の灯油価格が、18円当たり1252円。1年前の999円と比べると、25%も割高である。県教委は当初、高校の暖房費に、1億1千9百万を盛り、原油高騰を受け、今月需用費から10万を充てて追加配分した。高校教育課は、「予算を超えた場合、さらに追加を検討する」としている。

○その記事について、あなたが思ったこと、考えたこと、感じたことなどを書いてみよう。
松本の学校で、ストーブが使用開始になるのは、21日からだ。これを私は、ずいぶん遅いと思ったが、こういう理由があるかぎり、仕方のない事とも言える。しかし、寒い事に、変わりはない。灯油が多くとらえるようにするには、松達一人が、今のうちから、光熱費などに気を配り、来年に向けて過ごしていくのが、大切だと思った。また、灯油の上乗りの消費方法についても、しっかりと考え、必要のない日は、使わないように気を付けていきたい。

※非常に松達にとって、タイムリーな記事を選んでくれた。今どき、ストーブが朝から点けられるようになった。寒い思いもして、今年もハリゲン等の影響で、原油価格の値上がりという直接的なダメージがあるけれど、長い目で見れば、化石燃料は有限の資源だ。どうやってエコロジカルな生活を送れるのか、21世紀を生きる私たちに、課題だろう。

長野工業高校 建築科1年 学級通信	05.11.21 No.50 発行：柳澤秀樹
-------------------------	------------------------------

長野工業高校 建築科1年 学級通信	05.11.17 No.49 発行：柳澤秀樹
-------------------------	------------------------------

3連休が終わったが、上手に過ごせただろうか。テスト1週間前でクラブが休みだったところも多いと思う。「寝たきり高校生」や「ゲーム漬け」になっていなかっただろうか。今日の「計算技術検定」の準備や木曜日からテストの準備で忙しかったかもしれない。先を見通しながら計画的に進める力を養おう。

一方、土日に「県縦断駅伝」を始めとして全国で大きなスポーツ大会が開かれた。高橋尚子の復活、タイガーウッズや宮里藍の強さ、特筆すべきは15歳とほぼ同世代のテニス森田あゆみ、フィギュアスケートの浅田真央の優勝であろうか。いずれもその栄冠を手にするには長い年月のたゆまぬ努力があったことが想像できる。君達も自分の努力で何であれ、目標を達成しよう。

◎新聞を読む日々②～選ぶ力～

19日(土)に、信濃毎日新聞社で県内のNIE活動を行っている小・中・高の学校の先生方と、各新聞社の代表者(支局長)が集まって意見交換や実践交流をする会議があった。小学2年生から新聞記事の切り抜きに取り組んでいるところもあり、難しいながらも懸命な様子うかがわれた。うちのクラスも上手に今年のまとめに向かい、来年度に繋がられたら良いなと思いつながら帰途についた。

さて、君達はどのような基準で新聞記事を選んだのだろうか。「見出し」、特に「大見出し」に心惹かれたか、それとも「写真」に惹きつけられたのだろうか。新聞社は事件・事故などの事柄をどのように表現すれば、読者(私達)に臨場感を持って伝えられるかに苦労している。だから、見出しや写真は重要な要素なのだろう。

先週末までの時点で、レポート提出者26名(未提出の者は提出急げ!)である。新聞の指定も、月日の指定もなかったが、同一記事を選ぶ者(俗に言う「ネタがかぶる」)が何人が現れるかと思っていたが、今のところ1件(千葉ロッテマリーンズ・バリーグ制覇!)担任がタイガースファンであることを知りながらならなくとも偶然である。偶然であろうが、記事なくらいそれぞれ違う記事を選んでくれたている。素晴らしいことだ。もちろん、同じ事柄の記事であっても、新聞社や記者によって内容は別のものになる。(これについては、別の機会に新聞記事の読み比べをしようと思う。)また、例え同じ内容の記事を読んだとしても、読み手個々の捉え方によって別の感想・コメントとなるだろう。

通常新聞の朝刊は約40ページで構成されている。1紙の中の情報量は膨大なものだ。データによると「成人の1日の新聞を読む時間」は「平均約26分」と言われている。おおよそ朝の出勤時間に集中しているらしい。その時間どどのような記事に目をとめて(選び)、そこから何を自分のものとするか(感想)によって、随分その人の生き方が変わってくるのではないだろうか。世は「情報化の時代」であり、日々膨大な量の情報を精査して自分のものとしていくことが求められている。

まもなく新聞が届かなくなるが、この活動が終了後も新聞を読む習慣が身につつき、その中から必要な情報を選ぶようになっていくように良いなと思う。

昨日の「土木の日」講演会はどうだっただろうか。大脇先生からは「全員来て、しっかりと最後まで聞いて立派だった」とお褒めの言葉をいただいたが、まずは「人の話をきちんと聞く姿勢」が大切。そして、どんな話であれ、何か自分の心に留まるものがあれば、講演会を聴く意味があると思う。今回は残念ながら、俺は授業で行けなかったけれど、今年度の講演会(12/1県民文化会館)の時には、君達の「聴く姿勢」を見てみたいと思う。

◎新聞を読む日々①～想像力とは～

NIEの実践もいよいよ終盤に入った。毎日届く新聞の膨大な量に驚きながら、それも休み時間に新聞を読む君達の姿を見ると、多少なりともやってみようと思う。この2ヶ月を何回かに分けて振り返ろうと思う。

「驚く」と言えば、この2ヶ月間に起こった2つの事件が挙げられる。10月末に報じられた静岡岡島の16歳女子高生が毒物(タリウム)の投与によって母親への殺人未遂事件と、今週頭に報じられた東京都の同じく16歳男子高校生による同学年女子高生殺害事件というショッキングな事件だ。(柳澤もレポートで取り上げている。裏面)

それぞれ別の事件の背景には個々に抱える問題があり、一部マスコミが騒ぎ立てる「16歳・高校生」のキーワードだけで括ろうという姿勢には、同じ立場の君達は「一緒にするなよ」と反論すればいいし、「自分の中にもそういう傾向があるかな」と無理に卑下する必要もない。悩みが打ち明けられる人や場所の存在は大事だが…。

私はこの二つのニュースに触れながら、「想像力」ということを考えた。彼らに欠けていたことは、「自分のした(する)ことが他へどのように影響し、どんな結果をもたらすか」という想像力の欠如(不足)ではないだろうか、と。

実はこんな重大な事件にならなくても、日常生活の中には「想像力に欠けるなあ」と思われる場面に出会う。

例えば、先日地区のゴミ分別の立ち番で立って立って立っていると、明らかに回収日でない物が時間外に出されている。誰にも見られなければ大丈夫と思っただろうか。仕方なく私が自宅に引き取って、しかるべき日に出そうと思っただが…。

例えば、教室掃除の後、机の上に出して出したの想像力は欠けていないだろうか。レポートや課題の提出が遅れていることへの想像力は欠けていないだろうか。いろいろな事情で遅れることもあるだろう。しかし、大事なものはその遅れを取り戻すことだ。「いつ、何を、どこでやらなければならないだろうか?」ということに想像をめぐらす力を付けて欲しいと切に願う。

これから長野は雪の降る冬を迎える。今日も北部県境では少量ながら雪の予報だ。登校でも雪のある日となれば、路面が凍結しそうな日とそうでない日…。こんなところにも想像力を働かせて行動する場面があるのではないかと。

君達の今後の「想像力」ある行動に期待しようと思う。

長野工業高校 建築科1年 学籍通信	05.11.29 No.51 発行：柳澤秀樹
-------------------------	------------------------------

闘魂

朝の通学時間(俺の場合通勤だが…)、山に向かってくるのだが、随分山の色が変わった。緑色から赤や黄色の紅葉に彩られていたのが、落葉の茶褐色や黒褐色へと変わり、やがて雪の白になるのも間近だろう。この期末考査を終えたと12月一師一走だ。俺は年中精神的には走っているつもりだが、より忙しさに拍車がかかると季節だ。健康に注意！
残すところ、後1日2科目。もうひと踏ん張りだ。12月に“クルシミミマス” (寒ッ!) にならぬように努力しよう。

○新聞を読む日々③～読解力とは・1～

2ヶ月間にわたった新聞が届く日々も後2日で終わる。(NIE 実践はまともも含めてもう少し続ける予定だが…) 過ぎてしまえばあつけないものだが、新聞の量に一方で辟易しながらも(特に休み明けの広告も含めた膨大な量に)、他方で「生徒にきつと力が付くよね」と他の先生の励ましに支えられながらやってきました。

さて、今回は読み解く力一読解力について考えてみよう。新聞記事を読むときに大事なことの1つに、「事実は何か、記者の意見・感想はどれかを見分けること」にある。特に注意が必要なのは、事件や事故を伝える記事よりもコラムや社説等である。

記者には個々の思い・表現や判断の他に、各新聞社の方針が影響を与えている。誤解を恐れずに単純化すると、ジャニーズを持つ「中読売新聞」とドラゴンズを持つ「中日新聞」とが、プロ野球に関する報道で同じではないということには想像が付きだろ。また、全国紙と地方紙の「信濃毎日新聞」とでは、長野で起こったことにも容易に理解できる。これは非常に単純な例であるが、すべての事件・事故などに対して、「見出しの付け方から「紙面レイアウト」「写真の大小」に至るまで違ってくる。各紙面を見比べて見ると、いいのでは非ある日の1面だけでも何紙か並べて見ると良い。

君達の家庭では、84% (32/38) が「信毎」を講読している。読み慣れているので、「信毎」の記事をレポートにした人がやはり多いが、自分が選んだ事柄を他の新聞ではどのように書いてあるかを見比べてみる(「読解力とは」続く)

「写真の左端に」
担任の姿か...

長野工業高校 建築科1年 学籍通信	05.11.30 No.52 発行：柳澤秀樹
-------------------------	------------------------------

闘魂

期末考査が終わる、今日から再び通常授業に戻った。教科によっても早くもテストが返却されたことであらう。結果や如何にももちろん、自分の努力が実ったところは胸を張れば良い。また、できなかつた理由と面と向かうこと。いつまでも「勉強しなかつたからなん」は通らなげ。そろそろ結果に対して「単に一喜一憂する」のは終わりにしたい。できなかつたところは早めに復習するべし。特に君達が最も力を入れるべき数学・理科・専門は積み重ねの科目である。とにかく未提出の課題をなんとかしろ!!!

○新聞を読む日々④～読解力とは・II～

※今日はちょっと難しいこと書くが、分かったフリして読んでくれ。
昨日に引き続き、読み解く力一読解力について考えてみよう。「書いてあることが読めること」と「書いてあることが分かること」は似ているが違う。

前者は、「常用漢字」(高校生は、常用漢字表に掲げる漢字1945字を学習する) レベルが読めて、おおよその意味を知っていれば、十分可能である。実際、小学校の高学年位になれば、新聞を「読む」ことはそれほど難しいことではないだろう。そして、分らない言葉があれば、素直に尋ねるだろう。例えば、「益致」って何? とか、「ナノテクノロジー」って何? というように。もしくは辞書・事典を引く、インターネットで調べるだろう。

私はここまでは「書いてあることが読める」の段階だと思っている。「え! 尋ねたり、調べたりして、「分かった」んじゃないの?」と言われそうだが、それは単に「A=B」や「1+1=2」が見つかっただけなのだ。英語の文章や古典の文章を読む時に、一生懸命辞書を引いて個々の単語の意味は「見つかった」けれど、一文を訳そうとすると意味が分からなくなるといふ文章になるという経験をしたことはないか。そこでどうするかというと、それまで自分が獲得した知識(構文なり時代背景なり)と経験した解き方などを複合させて、意味の通る文章にしているはずだ。

つまり、「書いてあることが分かる」ためには、既に獲得している知識や経験が重要になってくる。もちろん、前提条件として道具(漢字や辞書・インターネット等)が使えることが大事だ。しかし、「読める」から「分かる」をつなぐためには、自分の知識や経験に照らして、「ここに書いてあることは自分の知っている〇〇に似ている」とか、「言い換えると××ということだね」と自分の言葉に置き換えられることが必要なのだ。もちろん、それを支えるものは子供の頃に持っていた「ねえ、あれは何?」という好奇心であること、言うまでもない。

そこで今回のレポートには、「自分が気になった記事を選んで…」という条件を出した。「気になる」には、自分の中に一定の知識や経験がなければ、単に「好奇心」だけでは飛びつけないと思うからだ。そして、「〇記事の内容」をまとめることは、「読むこと」であり、それを「〇その記事について、あなたが思ったこと、考えたこと、感じたこと」などを書いてみるには「分かる」ということが必要なのだ。

世間では「高校生には読解力がない」と言っている。冗談じゃない。知識や経験をどのように、目の前の事柄と結びつけるかの訓練が足りないだけだ。そうでなければ、ゲームや難解なマンガ(何頁も読書ばかり続くものは除く)に触れられまい。

教諭と報道各社が NIE で意見交換

長野市でセミナー 11/29(月)13時～15時

県教委と県内の新聞社、記者を講師として、各校に派遣したり、互に校に飛来したりして、NIE 推進協議会(会長・沢文隆信)が、19日、教育現場での新聞活用について考えるNIEセミナーを、長野市の信濃毎日新聞本社で初めて開いた。

県内の小・中・高校の教諭、報道機関の責任者ら約40人が出席。報道各社は、記者を講師として、各校に飛来したり、互に校に飛来したりして、NIE 推進協議会(会長・沢文隆信)が、19日、教育現場での新聞活用について考えるNIEセミナーを、長野市の信濃毎日新聞本社で初めて開いた。

NIE(新聞活用教育)は、新聞の活用を推進する目的で、県教委と県内の新聞社が連携して取り組んでいる。NIE(新聞活用教育)は、新聞の活用を推進する目的で、県教委と県内の新聞社が連携して取り組んでいる。

教育現場での新聞活用方法などについて考えた県NIEセミナー。長野市の信濃毎日新聞本社。

目 次

◇新聞を読もう(NIEの今年の活動として)

P2

◇NIEワークシート

P3~42

氏名	記事の大見出し	新聞名	掲載日	ページ
1 青木 孝介	ボビー流頂点	信濃毎日	10月18日	3
2 天野 大智	秋富士化粧	産経	10月12日	4
3 有賀 洋斗	たばこ自販機 未成年封じ	朝日	10月28日	5
4 大谷 龍平	水に溶けるトレー	産経	10月28日	6
5 岡澤 和彦	花炭「宝石みたい」	信濃毎日	11月2日	7
6 奥山 沙穂	間取り ぜひ自分で	信濃毎日	11月1日	8
7 勝山 茂亮	『大きく育ててね』	産経	11月8日	9
8 河内 慎太郎	蘇我入鹿の邸宅か	信濃毎日	11月14日	10
9 君島 太嘉志	高齢者も力合わせ『備え』	信濃毎日	11月14日	11
10 木村 寛史	県内初のPET・CT	信濃毎日	11月17日	12
11 楠 雅斗	帝国ホテルの技 香り高さ「黒ダイヤ」	毎日	10月20日	13
12 倉田 陽介	ロッテ31年ぶり優勝	読売	10月18日	14
13 小林 芳	働きやすく住宅改造	読売	11月5日	15
14 小林 佑太郎	浅間山10月状況「やや活発」続く	信濃毎日	11月9日	16
15 佐藤 龍弥	建築士免許の更新制検討	朝日	11月24日	17
16 澤野 匠麻	田臥を招集へ バスケ代表候補	信濃毎日	11月30日	18
17 鈴木 新平	チョウの羽、天然発光ダイオード	朝日	11月30日	19
18 関 寿希	太陽熱の有効利用	信濃毎日	11月29日	20
19 関屋 広題	迫れるか太陽系の謎	日本経済	11月14日	21
20 高松 奨	インフルエンザ薬タミフル 少年2人異常行動死	信濃毎日	11月13日	22
21 田中 奨悟	高校改革は私たちの問題 伊那で高校生集会	信濃毎日	10月23日	23
22 田村 知比呂	居場所を探しあぐねて	信濃毎日	10月16日	24
23 中込 雄紀	インド爆弾テロで22人拘束	信濃毎日	10月31日	25
24 中澤 拓馬	重さ640キロ巨大隕石 米カンザスで発見	信濃毎日	11月28日	26
25 中村 和博	タイ 独自生産へ	信濃毎日	11月5日	27
26 中村 政崇	修学旅行はインドへ IT先進国を学ぶ	信濃毎日	11月5日	28
27 平井 大地	松代の職人技術や歴史建造物たどる	信濃毎日	11月24日	29
28 平林 馨	今『常連客』は小学生	信濃毎日	10月30日	30
29 保坂 知也	荒廃地で栽培ソバ 児童ら味わう	信濃毎日	11月29日	31
30 穂谷 博紀	イラク 自爆テロ50人死亡	信濃毎日	11月21日	32
31 堀井 悠平	フセイン被告 無罪主張	信濃毎日	10月20日	33
32 増田 琢人	新しい「リアル」「ファイナルファンタジー」映像作品	信濃毎日	10月17日	34
33 丸山 淳樹	なぜさくら市は栃木県にあるかネーミングの謎	朝日	10月30日	35
34 丸山 太平	中村のセルテック首位	信濃毎日	11月1日	36
35 宮崎 徹也	資産デフレへの影響無視しないで	読売	11月4日	37
36 宮嶋 隼也	国内初のプロバスケットボールリーグ	信濃毎日	11月2日	38
37 柳澤 雅人	東京・町田の女子高生殺害 16歳少年逮捕へ	信濃毎日	11月12日	39
38 山岸 咲優	暖房費ピンチ 学校「厚着を」	信濃毎日	11月10日	40
39 山口 陽一朗	小海線で世界初運行	信濃毎日	11月9日	41
40 山崎 晃士	高橋 右脚に肉離れ	信濃毎日	11月19日	42
担任	大学生、漢字が苦手	朝日	10月5日	43
柳澤 秀樹	人間も建築も自己中心では限界がある	朝日	10月22日	44

◇NIEアンケートまとめ(実践前・実践後)

P45

◇おわりに

P46